

久納会計FAXニュース



新年号 今年はどんな年

平成26年1月25日

Kunoh Accounting Office

久納公認会計士事務所

少々遅くなりましたが、明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願い致します。

さて、今回のFAXニュースは例年通り、干支と過去の出来事から今年がどのような年になるのか推測してみます。ちなみに今年の干支は甲午（こうご、きのえ・うま）となります。

「甲（きのえ）」の意味

まず「甲」ですが、十干の最初の年になります。「甲」は草木の種を覆っている固い殻が、割れだす「かいわれ」状態を表すというのが一般的な解釈です。転じて甲冑（かっちゅう）・甲殻（こうかく）・鱗甲（りんこう）と使われ、いずれも固い状態を示します。草木の種の表皮が割れ、芽を伸ばしだす姿から「はじめ」、「はじまり」とも読まれています。

種を覆っている固い殻を指す意味から、漢字語源（藤堂明保先生）は、封じ込める事と解釈しています。単語家族として、蓋（ふた）・函（はこ）などを列挙しています。単語家族とは同意義を表す分類のことをいいます。

こうした意味を人事にあてはめると、旧体制が破れて、革新の動きが始まるということの意味するとされています。この自然の機運に応じて、旧来のしきたりや陋習（ろうしゅう）を破って、革新の歩を進めねばならないということになります。

「午（うま）」の意味

「午」は十二支の7番目で、半分の6年が経過し、ちょうどその次の年になります。

漢字語源では、午を「かみ合うなり」として使います。「午」は、両人がキネを交互に上下させ米をつく象形で杵を表します。これから、堅い米が柔らかく突きならされる、と解釈します。

堅い物、言うことを聞かない物を手なずけるのを「制御の御」といいますが、これと「午」は同一であるとしており、堅い物を柔らかくし、うまく交錯させる意味を表す漢字としています。

一方で、この「午」は「忤（ご）」に通じ、「背く、逆らう」という意味と解釈する意見（安岡正篤先生）もありますが、ここでは「かみ合う」という解釈で進みたいと思います。

更に、杵を交叉するように使い、堅い物を均（なら）すことから折り返し点と解し、十二支の七番目（半分を過ぎた時点）に用いられたとしています。前半が終わり後半に入った意味で、「午」は、行動力・転換を表す漢字です。

しかも、強い意志を「午」の漢字は潜ませています。牙・逆・迎などの漢字を並べ単語家族としており、この一連の漢字には激しい勢いを感じます。ここから「午は激しい行動を示す漢字とされます。

それでは、過去の甲午の年を見ていくことにします。

1954年（昭和29年）の出来事

この年はいわゆる「造船疑獄事件」が勃発し、時の犬養法務大臣が「指揮権発動」を行ったことが有名です。また、第5福竜丸がアメリカによるビキニ環礁での水爆実験により被爆しました。災害では洞爺丸台風により青函連絡船「洞爺丸」が転覆。死者行方不明1,155人を出す、大惨事となりました。

それ以外に文化的な出来事を並べてみると、その後は当たり前となるのが「初」に行われていることが多い印象があります。

たとえば、日本航空が戦後初の国際航空路を開設、蔵前国技館で力道山・木村組とシャープ兄弟の試合を開催（日本初のプロレスの国際試

合)、東京・日比谷公園で第1回全日本自動車ショー(現在の東京モーターショー)開催、日本文化放送が初の深夜放送を開始、東宝の怪獣映画『ゴジラ』封切りなどです。

1894年(明治27年)の出来事

この年の大きな出来事は日英通商航海条約調印と日清戦争開戦です。

まず、日英通商航海条約調印ですが、これにより江戸時代に締結された不平等条約が解消しました。内容は外国人の治外法権の撤廃、関税自主権の部分的回復、片務的であった最恵国待遇の相互化などですが、日本政府が明治のはじめより目指してきたことがようやく実現した記念すべき条約改正です。イギリスとの改正条約が成立したことにより、この年から翌年にかけてアメリカなどの列強との改正に成功し、欧米列強と対等の法的地位となりました。

日清戦争は、朝鮮の東学党の乱が発端となって始まりました。朝鮮の混乱から日本と清国がお互いに出兵することになり、宣戦布告に至ります。その後、黄海海戦、遼東半島制圧などを経て、翌年の日清講和条約の締結となります。この戦勝により、日本はその後、大きな発展を遂げることになり、日露戦争へと向かっていきます。これに対し、清国は滅亡へと向かっていくこととなります。

今年はどうなる年

甲午という年は「甲子」から始まる60年のちょうど半分が経過した、次の年になります。甲午は、「甲」・「午」、それぞれの意味からも大転換が予想される年となっています。60年前、120年前の出来事からも、こうしたことが予想されます。

昨年の癸巳の年も60年の折り返し点ということで、同様に大転換の年となるようなことを書きました。振り返ってみると、去年は株式市場が大幅に上昇し、2020年の東京オリンピックも決まるなど、大きな転換点となる良い年でした。去年は「巳」年でしたが、十二支の意味か

らは今年の「午」年の方がさらに期待出来るように見えます。

現在の甲子から始まる60年が始まったのは1984年、昭和59年にあたります。この頃はバブルに向けて日本経済が加速していき、平成2年以降のバブル崩壊に向かっていく時期でした。それ以来、日本経済は低迷し、失われた20年といわれる時代を過ごしてきました。その間に長らく維持していた世界第2位のGDPの座も中国に奪われ、世界的な地位も低落してきました。

こうした低迷から、今年は脱出できる転機の年となるのでしょうか。120年前は、明治の日本の国際的飛躍となる年でした。同じようなことが、現代の日本で起こるのでしょうか。いずれにしても、今年は期待したいと思います。

ただ、「甲」の意味を忘れないください。今年は「革新」の年なので、それに向かって努力することが必要です。

今年の当事務所の方針

当事務所においては、これまで同様、①お客様の経理処理の軽減、②お客様の資金繰りへの支援、③久納会計セミナーの開催、④贈与を中心とした相続対策の強化、⑤海外に強い事務所との連携、⑥営業の推進、といった方針を継続していきたいと考えています。

今年4月から消費税率がアップします。消費税率アップに対しての経理上の対応については近日中に発行予定のFAXニュース臨時号にてふれさせていただく予定です。

また来年の平成27年からは相続税の基礎控除が4割減となります。ここしばらく久納会計セミナーも開催しておりませんが、今年は相続税関係のセミナーを開催する予定ですので、ご参加いただけるよう、お願い申し上げます。

以上

参考文献

安岡正篤著『干支の活学』(プレジデント社刊)
干支歳時記(越玄さんのホームページ)
ウィキペディア、各種年表など